

ボランティア・市民活動のコーディネーター・リーダー等推進者のための ボランティア情報

【volunteer_information】

2012 APRIL

4

VOL.419

平成24年4月1日発行 毎月1回1日発行



ソーリズム事業で活躍する高校生たち、ガイドした企業のメンバーと

特集

「良かつた」がいっぱいの 助成金

ご存知ですか?
知っているようで知らない!?

02

今月の鼓動

岩手県上閉伊郡大槌町 「おらが大槌夢広場」



いわて けん かみへ い ぐんおおつちちょう
岩手県上閉伊郡大槌町

● 取材日 / 2012年3月13日(金)

大槌の再興のために、どんどん外の人々に来てもらいたいと語る白沢さん。「来て見て感じて、一緒に友だちになつてもらうことが一番の応援です」。

「まちづくりに若い人に関わってほしいと高校生にも参加してもらっています。何もないところが良いところを沢山知つてもらつた方が良いところを沢山知つてもらつて逆に教えてもらつています」。

大槌の再興のために、どんどん外の人々に来てもらいたいと語る白沢さん。「来て見て感じて、一緒に友だちになつてもらうことが一番の応援です」。

「まちづくりに若い人に関わってほしいと高校生にも参加してもらっています。何もないところが良いところを沢山知つてもらつた方が良いところを沢山知つてもらつて逆に教えてもらつています」。

大槌出身の白沢さんは同グループで、被災地を見たいという人のためにガイドを付けて案内するソーリズム事業を担当しています。そして、そのガイド役を担うのは地元の大槌高校の生徒たちです。

大槌町を中心に、町民・各分野の専門家・サポートで構成された地域再建プロジェクト。地域の人々の知恵と英知を結集し、観光業・商工業・農業・水産業の再建と、参画者の生活支援、雇用機会の創出を目的として結成された。

個人・企業・ボランティアを受け入れる「大槌復興ソーリズム」、地場産品を味わえる「おらが大槌復興食堂」など、様々な角度から郷土大槌町の再興に挑戦している。

岩手県上閉伊郡大槌町
「おらが大槌夢広場」
<http://www.oraga-otsuchi.jp/>

Contents

ホントは身近なボランティア
宮崎県都城市西岳地区

06

突撃訪問!
隣のコーディネーター
(インテリアコーディネーター)

07

帰ってきた!
あるある質問コーナー

08

保険の広場
つながって広げ続けよう!
事務局だより

08

特集

ご存知ですか？知っているようで知らない？！



①助成金に関わる さまざまな関係者

助成財団や企業などは、社会的な課題を解決することを期待してボランティア・市民活動団体等に助成します。そのため、当然のことながら、第一には、いかに課題解決のための成果を挙げるか、ということが問われます。しかしながら、「助成金」はそれ以外のさまざまな効果を引き出す可能性を持っています。

助成金には、助成金をもらって活動を行う立場(受ける立場)、助成金を希望する団体から相談をもちかけられたり、助成申請の際の推薦や仲介を頼まれる立場(つなぐ立場)、それから助成金を出す立場(出す立場)など、さまざまな立場の団体や人が関わります。

ボランティア・市民活動団体・グループは助成金をもらって活動する立場がほとんどかと思いますが、社会福祉協議会(ボランティア・市民活動センター)は、助成金をもらう立場、つなぐ立場、出す立場のいずれにもなる場合があります。

②助成金の「+α」の効果とは

それぞれの立場にとっての「+α」とは

なんでしょうか。詳しくは次項以降、それぞれの立場の方から紹介してもらっていますが、例えば以下のようなものがあります。

●助成金をもらう立場にとって

- ・他の団体等と知り合えた、協力関係をもつきっかけが得られた(説明会や審査会、報告会等で)
- ・取り組んでいる社会的な課題や取り組んでいる活動について発信することができた
- ・社会的な信用・認知が高まった(助成金がもらえる団体として)
- ・助成金申請や報告にあたって、改めて自分たちの活動の意義や進め方について考える機会を持てた
- ・活動をより充実させる意識をもてた(「助成金をもらったからには！」と頑張る気持ちが持てた)

●助成をつなぐ立場・助成金を出す立場にとって

- ・知らない団体と接点が持てた
- ・既知の団体をより詳しく知ることができた(運営面での苦労や悩み等)

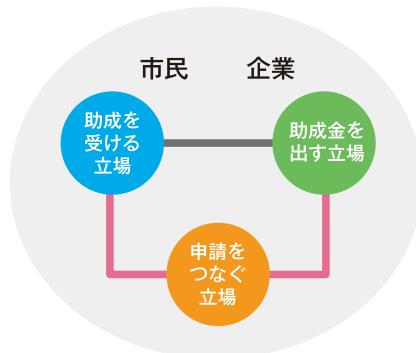
助成金は、ボランティア・市民活動団体が運営・活動していくうえで重要な財源です。しかし、活動のための資金が手に入るという目的以外にもさまざまな良い効果をもたらしてくれるものです。

助成金の「+α」の効果にはどのようなものがあるのか、それらの効果を得るためにどのような工夫があるのか、といったことを一緒に考えてみましょう。

- ・地域の課題を知ることができた
- ・地域の団体同士をつなぐことができた

③活動を支える基盤を 強くするために

助成金の財源の多くは企業や市民などの寄付によって支えられています。そのため、それぞれの団体等が活動や助成金の意義や成果、活動が助成金によって支えられていることを発信していくことが非常に大切です。できるだけ多くの人々に、活動や助成金の意義を知つてもらい、関心を高めてもらうことが、活動への参加や寄付などの協力の裾野が広がり、ボランティア活動や市民活動の基盤が充実していくことにつながります。





助成を受ける立場にとっての効果とは？



「助成金事業は、
気づきや協働の機会を
くれました」

特定非営利活動法人 福井県子どもNPOセンター 理事長
し みず まさ み
清水 雅美さん

助成団体の研修で振り返った 自分たちの活動

福井県子どもNPOセンターでは子どもたちの成長を支える、さまざまな取り組みを行っています。不登校の子ども達と、芝居づくりを通して、自信や表現力、人と関わる力などを身につけるお手伝いをする取り組みもその一つ。役を演じるために大きな声を出したり、芝居作りのために話し合いを重ねるなど、学校ではできなかったコミュニケーションが活発に行われています。

こうした活動を支えていただいているのが助成金。特に企業によってはスタッフの活動費を認めてくれるものもあり大変助かっています。また、助成金の目的に沿って、NPO運営のための研修を開いてくれました。おかげで、これまでの私たちの事業を振り返る貴重な機会を得ることができました。

しっかりとした役割分担で それぞれの負担を低減

当センターの事業は主に助成金や委託金で運営されています。私は2代目の理事長として就任しましたが、事務局体制がしっかりとしていたおかげでス

ムーズに引き継ぎました。

小規模な団体の場合は、役割分担が大切。リーダーにばかり過度な負担がかからないように配慮が必要です。特に会計は負担が大きいので、担当者が専念できるようにしてあげた方がいいですね。

また、年4回発行している広報誌で、活動内容や事業の成果、助成金の支援を受けていることなどを伝えるよう心がけています。活動や助成、募金などで協力してくれたさまざまな方々と信頼関係を積み上げていくために大切なことと思っています。

助成金は他団体との 協働を後押ししてくれる

当センターの目的は、「子どもたちが思いっきり豊かな子ども時代を過ごせる社会」を作ることです。子どもの成長をサポートする事業、子どもの直接体験事業、子育て支援事業、行政・他団体との協働事業など多岐にわたります。

この活動を実現していくためには、当センターだけではなく、

他団体との協働が欠かせません。

助成金のなかには、団体同士が連携することを条件にしているものがあります。そうした働きかけがあると、必要と思っていても実施できていなかった連携に踏み出しやすくなります。

現在、福井駅前で、子どもたちのお祭りを商店街の活性化を兼ねて行うことを企画していますが、とても単独ではできません。さまざまな団体や企業などが連携・協働することで可能性が広がることを感じています。

私たちは今後も助成金を活かしながら、子どもたちのために積極的な活動を続けていくつもりです。

〈取材日：平成24年4月3日（火）〉



不登校の子どもたちと共に創り上げる劇の練習風景。参加者の意見交換の場である。



申請をつなぐ立場にとっての効果とは？

特集 「良かった



役員に向けての公開審査会。スクリーンを食い入るように見つめる参加者たち。

助成は互いを知る機会。 うまく活かしたい

京都市北区社協では、財団や企業から寄せられた助成情報はWebサイトに掲載したり、直接ボランティア団体に知らせたりしながら、広報しています。そして、ボランティア団体等が財団等に助成金の申請をする際の推薦や相談ごとへの対応などを行っています。

残念ながら申請されるボランティア団体すべてを把握できているわけではありません。しかし、相手を知らないからと敬遠するのではなく、申請をきっかけに、その団体を知り、関係を広げて

いこうと前向きに考えています。実際、助成金をきっかけに知り合った団体に対し、北区のお祭りや他の事業に参画してもらうなど、つながりを広げる努力を続けています。

大学生たちとつくる 個性的な公開審査会

私たちは、共同募金の助成金の一部について公開審査会を行っています。役員などの募金関係者に充分に内容を知らうことが目的ですが、公開審査会に参加した団体同士の交流の機会にもなっています。

北区社協では、大学生に実習の機会を提供したり、また実習を終えた学生たちをインターンシップとして受け入れています。ちょうど秋に行われる公開審査会と実習の時期が重なること、交流する機会として盛り上げたいとの思いから、学生たちにコンセプトづくりや企画から実施までを担ってもらっています。過去3年間実施して大変好評を博しています。

学生たちの自由なアイデアは、「笑点」や「のど自慢」のパロディから、運動会モチーフのものなど多種多様。交流もねらいとした公開審査会を明るく盛り上げ、交流しやすい雰囲気をつくれました。

助成金はきっかけ。 ここから“北区の仲間”とつながる

実はこの2年間、長らく助成金をお渡ししてきた団体への助成金の見直しを行ってきました。募金に協力していただいた住民個々に説明できる助成が求められています。

小さな団体の皆さんは自分たちで活動資金を集めていますが、それだけでは限界があります。助成金を有効活用することによって活動の基盤を安定させるとともに、かつ「助成金をもらえる団体」という信用を付けるお手伝いすることが私たちの役目だと考えています。

ボランティア団体やNPOは私たちにとって、北区を共に良くしていく“仲間”です。助成金はそうした仲間と出会い、お互いを良く知るきっかけづくりの手段として今後も活かしていきたいと思います。

〈取材日：平成24年3月28日（水）〉



「助成金は互いを知る機会。

新しい“仲間”と

地域に貢献したい」

社会福祉法人 京都市北区社会福祉協議会 事務局次長

おお ふじ みのる

大藤 実さん

」がいっぱいの助成金



助成金を出す立場の思いとは？

「助成は婚活と同じ。
自分の思いを実現してくれる
パートナーを求めていきます」

公益財団法人 助成財団センター 専務理事

たなかひろし
田中皓さん



「絶対に諦めるなフェア」 で申請者を応援

助成財団と助成金の申請者は、お金を渡す側、もらう側の上下関係があるかのように思われることがありますが、財団は申請者を、一緒に事業を進めてくれる“パートナー”として捉えています。私たち財団は企業などの寄付者から資金をお預かりはしていますが、自分たちで単独に事業を実行できるだけの体制はありません。助成金の理念や目的を実現するための実行力をボランティア団体に期待しています。

財団の資金には限りがあるため、相対的に優れた申請を選択する必要があります。そのため、良い申請でも落選する場合もありますが、次も駄目とは限りませんので、私たちは申請してくれた団体には「絶対諦めないでほしい」とエールを送っています。

なかには、申請書を見ていると、勿体ないなと思ってしまうものもあります。例えば、申請書には簡潔に記載し、別紙で詳細な資料を添付してくれる団体もありますが、財団も審査委員も限られた時間と体制のなかで公平性を重視しつつ審査をしていますので、そこまでは見られないこ

ともあるのです。財団が文字数や様式を指定しているのには理由がありますので、書類の不備や記載漏れなどがないようにしていただけたらと思います。

助成する側、される側。 喜びを共有したい

助成財団は地方ごとに助成先の団体を招いて贈呈式を行うことがあります。それにあわせて、地方紙等に取材してもらうような働きかけをしたり、してもらえることもあります。

これは財団と助成先の団体と両者にとってメリットがあります。助成を受ける側は財団から助成を受けたことが知られて、地域での信用度・知名度が高まります。助成する側も地域に周知されることはもちろんですが、関係企業の社員が知って、「うちの会社は素晴らしいことをやっている」と自社を見直すきっかけになります。

助成は「婚活」と同じ。 的確な相手を探す旅

私たちの活動は、わかりやすく言うならば、「婚活」です。公募～

選考の過程はまさに「婚活」と言っても良いでしょう。自分の思いを達成してくれる相手をなんとか探し出したいと、日々お見合いを続けているのです。

多くの場合、財団の財源は、低金利で経済情勢の厳しいこの時代に、企業や個人の方が必死の思いで確保したものです。財団のスタッフはそれが痛いほどわかっているからこそ、この貴重な資金を少しでも有効に活かしたいと思って関わっています。申請者の方にもそうした思いを共にしていただき、パートナーシップを確立できることを願っております。

〈取材日：平成24年4月2日（月）〉



贈呈式の様子（損保ジャパン記念財団・助成事業）